



©WFP/Tim Dirven

乳幼児向けの栄養強化食品の調理指導。栄養支援が子どもの発育を助け国々の土台をつくる(ニジェール)

飢餓のない世界をめざして

国連の食糧支援機関

# 国連WFPニュース

Jul.2016 Vol.49

知花くららさん、最貧国マラウイを訪問  
～貧困と災害に負けない力を～  
竹下景子さん、スリランカを訪問  
～内戦後の復興を目指す～

# 知花くららさん、最貧困国マラウイを訪問



©M.Kuroyanagi

地産地消の給食は栄養満点

「今年は例年の10分の1ぐらいしか豆が育ちませんでした。豆を売つてなんとか生活しているのに、今年はどうしたらいいかわかりません」夫と娘を亡くし、孫など6人をひとりで育てているファレスさんは、力なく話しました。

知花さんが「一番衝撃的だつた」というのは、南部のバラカ県の畑を訪ねた時のことです。農家のファレスさんのキマメ畑は来月収穫を迎えるが、あまり実がついていませんでした。

子どもの4割は慢性的に栄養不足。災害にも相次いで襲われるなど、問題が山積しています。

「畑がからからでほとんど実がないのを見て衝撃を受けました。エル・ニーニョ現象の影響を

农作物が流され、新たに作物を植えると、追い打ちをかけるようにひどい干ばつが起きました。そして今年も大干ばつが続き、雨水に頼って農業を営んでいるファレスさんにはな

す術がなかつたそうです。この異常気象はエル・ニーニョ現象の影響と知花さん。調査では国民の4割が最貧国の一つであり、5歳未満の

この地域では、去年、洪水が発生。さまざまと見せつけられ、『静かな危機』が起きていると感じました

と、青々とした野菜が元気に育っていました。なぜこのような差が生まれたのでしょうか。実は、この村の住民は共同で近くの川から水を引くかんがい工事を行い、雨水だけ



©M.Kuroyanagi

ファレスさんの畑。2年連続のひどい干ばつで、収穫は激減



©M.Kuroyanagi

食糧支援を受けながら農地に水を引いたバマシ村では、青々とした野菜が育つ





©M.Kuroyanagi

知花さんが国連WFPの現場を訪問するのは9回目

に頼らない農業を実現したのです。また、国際協力機構（JICA）の研修で保水能力の高い堆肥作りを学んだ人が村人にその技術を伝え、さらに魚の養殖池も掘りました。工事期間中は、国連WFPがトウモロコシや豆などを提供し、生活を支えました。

「前は高くて買えなかつた魚や野菜ですが、今は自分で育てているのですぐに手に入ります。栄養がとれて健康になり、余った分は売つて貯金しています。私たちの誇りです」と村人たち。知花さんは、「収入を得られるということが自信にならぬのですね。広がつて、お母さんたちの笑顔が増えていくつほしいです」と感心していました。

同県のムベラ診療所では、生後11ヶ月のシェドリック君に出会いました。大きな目がかわいい赤ちゃんですが、元気がありません。体重を量ると、わずか6.5キロと、前月より1キロも減っています。「干ばつで食べ物が足りず、2週間前にマラリアにもかかつてしまつたんです」と、母親のジェシーさん。

国連WFPは地元の農業組合に重度の栄養不良と診断され、治療を受けるとともに、国連WFPから2週間にごとに栄養強化食品を受け取り、栄養改善をはかることとなりました。「これで体重も増えるでしょう」。

野菜ですが、今は自分で育てているのですぐに手に入ります。栄養がとれて健康になり、余った分は売つて貯金しています。私たちの誇りです」と村人たち。知花さんは、「収入を得られるということが自信にならぬのですね。広がつて、お母さんたちの笑顔が増えていくつほしいです」と感心していました。

同県のムベラ診療所では、生後11ヶ月のシェドリック君に出会いました。大きな目がかわいい赤ちゃんですが、元気がありません。体重を量ると、わずか6.5キロと、前月より1キロも減っています。「干ばつで食べ物が足りず、2週間前にマラリアにもかかつてしまつたんです」と、母親のジェシーさん。

国連WFPは地元の農業組合に農業支援を行い、質の高い食材を生産できるよう手助けをします。同時に学校には資金を提供し、学校はその資金を用いて農業組合から食材を購入するという仕組みです。

希望を持つています」とジェシーさんは力強く話しました。知花さんは、「今、栄養不良だとわかつてよかつたですよね。目の当たりにしてシヨツクでしたけど、子どもの成長を見守る場があることがお母さんたちの心の支えになるのですね」と語りました。

中部のサリマ県では、カビラ小学校で国連WFPの支援による地産地消の給食を見学しました。この日の給食は、青菜・玉ねぎのトマト煮込み、ごはん、ゆで卵、バナナと栄養満点でした。「お野菜もタンパク質もとれておいしそう！」と知花さん。

視察を振り返り、知花さんは「災害などがあつても早く復興できること」ができます。勉強を続けて先生になりたいです」と夢を語ってくれました。

6年生のニアさんは18歳。16歳で妊娠し、いつたんは退学しましたが、給食があり、きちんと出席すると追加の支援として毎月国連WFPから10キロのトウモロコシも支給されるため、出産後、復学することができます。「勉強を続ける」と語りました。

ニアさんは「先生になりたいです」と夢を語ってくれました。

一方で、干ばつ被害は本当に深刻で、知の大切さを感じました」と語りました。皆様の温かいご支援をよろしくお願ひします。



ジェシーさんとシェドリック君



歌と踊りで知花さんを歓迎するマラウイの人たち

子どもたちには地元の野菜や果物などを使つて充実した給食が提供でき、農家にとつては安定した収入が得られるという相乗効果があります。

# 竹下景子さん、スリランカを訪問 「内戦後の復興を目指す」



©Mayumi Rui

診療所で栄養強化食品の配布を手伝った竹下さん。日本からの支援も届いています



©Mayumi Rui

まだ生々しい洪水の傷跡。民家が浸水していました

国連WFP協会親善大使の竹下景子さんが5月下旬、スリランカを視察で訪れました。同国は2009年まで26年間続いた内戦により、社会的及び経済的に甚大な被害を受けたため、今も全人口の22%にあたる470万人近くが栄養不良の状態にあります。更に干ばつ、洪水といった自然災害が増えており、特に低所得者が安定的に食べ物を入手し栄養を摂ることが難しくなっています。竹下さんが到着した際も、5月15日からの豪雨の影響により各地で洪水や地滑りが発生し、5月23日

時点ですでに100名近くが亡くなり28万人以上が被災するなど大きな被害が出ていました。コロンボ郊外の被災現場を訪れた竹下さんは「途上国では都市であっても自然災害にはもうく、特に貧しい方が最も被害を受けるということを実感しました」と語りました。国連WFPは政府の要請を受けて、9月までの3ヶ月間、最も貧しい人々およそ4万人を対象に食糧購入のための現金支援を実施しています。

次に向かったのは内戦で最も被害を受けたスリランカ北部の地域です。戦火を逃れるため国内外に避難していた人々が、内戦終結後少しづつ戻ってきて、生活をゼロから立て直しています。国連WFPは彼らを食べ物の心配から解放し、子ども達の健全な成長を促すため、様々な支援を行っています。

北部地域では約43%の世帯が食糧不足に陥っており、母子の栄養不良が深刻です。そのため国連WFPは栄養強化食品の配給や栄養教育

新生活を後押ししています。男性が

の実施により、母子の栄養状態の改善に力を入れています。最北端ジャフナ地域のコディカマム診療所では、子どもの体重・身長計測の人々が熱心に講習を受けている。最後に栄養強化食品の配布が行われました。竹下さんは「お母さんたちが熱心に講習を受けているのを見て感心しました。年齢の割に小さく見える子たちもいましたが、国連WFPの支援を受けて元気に育つてほしいです」と語りました。

昨年再定住が始まったジャフナ地域のテリパレイを訪れる女性達が道路を整備する作業に参加していました。この地域は内戦前は学校や公民館、診療所等が整っていました。この地域は内戦で全てが破壊され荒れ地になってしまったため、土地の整備が必要です。そこで国連WFPは作業に参加する人たちに一日4ドルの現金を配布して





©Mayumi Rui

ヴァダカンダル学校で生徒たちと一緒に給食を食べる竹下さん。左端がニデルセン君

内戦は北部地域の学校にも深刻な被害をもたらしたため、国連WFPは北部の計958校16万人の子ども達に対し、学校給食プログラムを実施しています。マンナーラム地域のヴァダカンダル学校は、内戦中に破壊され2010年に再開校した学校で、現在は454人の子ども達が通っています。訪問した日の給食は、国連WFPが提供

遠くへ働きに出て、女性がこうした作業で現金・食糧を手に入れないと、生きていくことすら難しいのです。女性たちに話を聞くと「生活は厳しいですが故郷に戻れて嬉しいです」と語ってくれました。竹下さんは「皆さんの生活が早く安定してより良くなることを心から願っています」と伝えました。

内戦は各地を転々としなくてはならない

で、給食は本当に助かります」と話してくれました。また校長先生によると、給食が子どもたちの就学率の向上に大きく貢献しているそうです。実はこの学校は2010年に知花くららさんが視察で訪れた学校で、今回は知花さんが当時出会った少年ニデルセ

ン君にも会うことができました。ニデルセン君は13歳に成長して尼花くららさんとも会うことができました。そう尼花くららさんにも会うことができました。尼花くららさんは「皆さんの生活が早く安定してより良くなることを心から願っています」と伝えました。

内戦は北部地域の学校にも深刻な被害をもたらしたため、国連WFPは北部の計958校16万人の子ども達に対し、学校給食プログラムを実施しています。マンナーラム地域のヴァダカンダル学校は、内戦中に破壊され2010年に再開校した学校で、現在は454人の子ども達が通っています。訪問した日の給食は、国連WFPが提供



©Mayumi Rui

道路整備作業中の女性たち

した米・豆・魚の缶詰・油と、地元の農家から調達された野菜で作られたカレーでした。子どもの親に話を聞くと「家では朝は紅茶一杯しか出せず、食事も十分な量やカロリーを与えるられないの

で、給食は本当に助かります」と話してくれました。また校長先生によると、給食が子どもたちの就学率の向上に大きく貢献しているそうです。実はこの学校は2010年に知花くららさんが視察で訪れた学校で、今回は尼花くららさんとも会うことができました。尼花くららさんにも会うことができました。尼花くららさんは「皆さんの生活が早く安定してより良くなることを心から願っています」と伝えました。

内戦は北部地域の学校にも深刻な被害をもたらしたため、国連

建設中で生活は楽ではありませんがとても幸せです。息子も給食のおかげで勉強にも遊びにも積極的に取り組んでいます」と語つて



©WFP/Yuko Yasuda

ニデルセン君。左が2010年、右が2016年

で、給食は本当に助かります」と話してくれました。また校長先生によると、給食が子どもたちの就学率の向上に大きく貢献しているそうです。実はこの学校は2010年に知花くららさんが視察で訪れた学校で、今回は尼花くららさんとも会うことができました。尼花くららさんにも会うことができました。尼花くららさんは「皆さんの生活が早く安定してより良くなることを心から願っています」と伝えました。

内戦は北部地域の学校にも深刻な被害をもたらしたため、国連WFPは北部の計958校16万人の子ども達に対し、学校給食プログラムを実施しています。マンナーラム地域のヴァダカンダル学校は、内戦中に破壊され2010年に再開校した学校で、現在は454人の子ども達が通っています。訪問した日の給食は、国連WFPが提供

で、給食は本当に助かります」と話してくれました。また校長先生によると、給食が子どもたちの就学率の向上に大きく貢献しているそうです。実はこの学校は2010年に知花くららさんが視察で訪れた学校で、今回は尼花くららさんとも会うことができました。尼花くららさんにも会うことができました。尼花くららさんは「皆さんの生活が早く安定してより良くなることを心から願っています」と伝えました。

内戦は北部地域の学校にも深刻な被害をもたらしたため、国連WFPは北部の計958校16万人の子ども達に対し、学校給食プログラムを実施しています。マンナーラム地域のヴァダカンダル学校は、内戦中に破壊され2010年に再開校した学校で、現在は454人の子ども達が通っています。訪問した日の給食は、国連WFPが提供

で、給食は本当に助かります」と話してくれました。また校長先生によると、給食が子どもたちの就学率の向上に大きく貢献しているそうです。実はこの学校は2010年に知花くららさんが視察で訪れた学校で、今回は尼花くららさんとも会うことができました。尼花くららさんにも会うことができました。尼花くららさんは「皆さんの生活が早く安定してより良くなることを心から願っています」と伝えました。

# WFP ウォーク・ザ・ワールド開催 ～横浜・大阪合わせて 5,921 名が参加

今年の「WFP ウォーク・ザ・ワールド」は、5月15日に横浜みなとみらいで11回目の開催となり、また5月29日には初めて大阪でも開催しました。参加者数は横浜で4,658人（過去最多）、大阪で1,263人、合わせて5,921人となり、募金額は計5,575,400円になりました。これによりおよそ18万5千人の子どもたちに給食を届けることができます。ご参加・ご協力くださった皆様、誠にありがとうございました。



横浜会場のスタート地点。子どもたちに給食を届けようとウォークを開始



横浜のウォークでは赤レンガ倉庫などの名所を巡りました



大阪のウォークでは大阪城周囲も歩きました

## 身近な国連WFP支援

### ▶ お買い物で支援

商品の売上の一一部が国連WFPの支援活動に寄付されます。



みるくぼきん  
[生活協同組合  
ユーロープ]



ガーナリップル  
[ロッテ]



チャリティー4  
[ピザハット]



蓄圧式粉末(ABC)  
消火器  
[河本総合防災]

### ▶ SNS投稿で支援



ゲロルシュタイナー  
[ポッカサッポロフード&ビバレッジ]  
『ゲロルシュタイナー』を飲んで  
ファスティングに取組み、  
Instagram等に投稿することで寄付。

詳しくは



<http://www.jawfp.org/redcup>

<http://ja.wfp.org/corporate/crm>

## インフォメーション

### WFPエッセイコンテスト 2016 ～あなたのエッセイが途上国の給食に～



©TNT/Juan Nieto

7月1日から9月9日まで、「ぼくの私のちからメシ」をテーマにエッセイを募集しています。対象は小学4年生以上。応募1作品につき、給食4日分(120円)が、寄付協力企業より寄付され、途上国の学校給食支援に役立てられます。食事は困難を乗り越える力となるのはもちろん、思いがけないパワーを生み出すこともあります。皆さんにとっての「ちからメシ」は何でしょうか。

募集期間 2016年7月1日～9月9日 [必着]

応募方法 郵送およびオンラインにて。  
字数は400～800字まで。

発表 10月14日(金)にウェブサイトで発表

お問合せ WFPエッセイコンテスト事務局

TEL: 03-3980-9030

(平日)10:00～12:00 / 13:00～18:00

詳細・応募 [www.wfpessay.jp/2016](http://www.wfpessay.jp/2016)



World Food Programme

# 国連WFP

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい 1-1-1 パシフィコ横浜 6F

[www.wfp.org/jp](http://www.wfp.org/jp)

0120-496-819

受付時間 9:00～18:00 (通話料無料・年中無休)